

伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針の見直しに係る さまざまな人権課題に関する意見聴取概要

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見
女性	<p>1</p> <p>これだけ見ていたら当たり前のことが書かれている。課題も当たり前のことが書いてあり、その通りですみたいな感じである。</p> <p>去年より今年だったり、今年も前半と後半だったり、どんどん世の中が変わっていくので、この先5年10年を見越した内容にしないといけないと思う。</p> <p>DV相談室でいうと、女性に対する暴力が圧倒的に数は多いが、女性から男性への暴力も最近問題になってきている。その辺のところを配慮した表現が必要だと思う。</p> <p>あとは、性的マイノリティのことだが、前は性同一性障害と言っていたが、WHO総会で性的不適合という言葉に改められたので、その辺の表現が必要だと思う。</p> <p>あと、人権問題は、ここはここ、ここはここ、ではなく一人一人の話なので、行政と市民との連携、各部署ごとの連携みたいな、連携をさらに高めていくべきことなのかと思う。</p> <p>私は社会教育委員もしているが、社会教育の今後というと、市民同士が自発的に学んで、学んだことを活かして地域づくりをする考え方をこれからの時代はますます必要になっていくという話がよく出ているが、学んだことを地域に活かすことの根底には人権ということが必要なので、多様な学び方、多様な連携が必要。具体的にいうと男女共同参画センターが設置されて、そこで学ぶ人も沢山いるが、ここのセンター(ふらっと)での学びと、男女共同参画センターでの学びと、共同企画、共同講座だったりするとまた面白くなったりすると思う。</p>
子ども	<p>1</p> <p>子ども一人、一台のタブレットが子どもらに配布され、テレワークもできますし、遠隔でできるし、子どもらはいろいろ共有できるが、家庭の持ち帰りをどうするかが学校で話し合いがなされている。気になるのは、それを利用してネットに入ったり、それを使ってネットいじめが始まったら心配だなと思う。インターネットやSNSの使い方を、今後学校の中で相当教育していかないと、大人になってからたくさん拡散しており、それを使って差別的な発言があって、それが堂々と、とおっているような、消してくれと言っても消してくれないという状況になっているのは大きなことだと。根本となるところは教育だなと。子供たちからそういうことをきちっと情報モラルみたいなことや、それを使っていじめをしてはいけないという事は、教えていかないといけない。伊丹市には、いじめ対策の推進協議会があるのだが、もしかしたら情報モラルに特化した対策会議やら対策本部を作らないといけないのはなんとなく思う。それが最終的に、子供たちの最新利用の使い方、インターネットの使い方に繋がって行けばいいのかなというような、これからの10年間で考えていかないといけないのかなと思った。</p> <p>もう一つは性の多様性について、中学校の学生服がどんどん変わってきている。女の子はスカートではなくズボンを着ているのを見た。今後の性の多様性に対して、学校がどういうことにしていくかという事は大きな問題ではないかと思う。教育では、子ども達にそういうことを教えることは大事だし、環境を作ることも大事、色々しないといけないことがある。今、先生たちの意識が変わって制服を変えていこう、子供たちのためにやっけて行こうと一つの物が見えてきている。これをもうちょっと大事にしながらやっけていってほしいなと思うし、環境づくりでは、トイレを変える、更衣室を変える。私が知っている小学校は一人おり、今プールが始まり、この子どうやって着替えるんだという事が出ている。どこだろう、保健室かな、そんな所ない、みたいな所も今からの問題になるのではないかという気がする。そこら辺の環境づくりや、本来的な子ども達の教育や子どもの支援も考えていかないといけないというのは入れてもらえたらと思う。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見
2	<p>情報化の話だが、人権擁護委員では、スマホ人権教室を毎年やっているのだが、各学校引っぱりだこという感じで、どこの学校でも要望がある。</p> <p>スマホをいかにして上手に使うかをNTTドコモと一緒に人権擁護委員が小・中学校へ行き、使い方によって、どんな怖いことがあるかという事を中心に、ネットから起こる犯罪といじめを中心に、スライドを見ながらドコモが話をし、それに関して私たちはそういうことが起きた時には、人権擁護委員に相談してくださいという啓発をさせてもらっている。人権教室なのに、ゲームの話になると子どもたちはすごく手が挙がって生き生きしている。何時間しているのか、親は知っているのか、いろんな質問をしても、親がきっちり規制できていないように感じる。課金の請求が来てから親が分かるなど、問題は多いと思うので、私たちは聞いてもゲームの話は全然ついていけなくて、そんなのがあるんだという感じで聞いている。何かあった時の窓口として、人権擁護委員はSOSミニレターと共にカードを配って対応している。先ほどから皆さんの話を聞いていると、相談は、言っていける所があるというのには、とても大事なことだと思いながら、人権擁護委員への相談件数が少ないので、いつもこれでいいのかと。1時から4時まで座ってても、誰も来ないことが続くと、人権擁護委員がそこに座っているのがいいのか、それぞれの問題で、問題ごとの常設室が必要で、私たちみたいな、なんでもどうぞというものはこれからは無くなっていくのではないかと、それでも必要があるのか、考えさせられることがある。</p> <p>私たちは、女性問題だったり、障害者問題だったり、外国人問題だったり相談を受けますが、ちゃんと深く答えられないところがあり、専門機関に紹介するという、つなぎの役目をさせていたでいる気がするので、それも必要なのか、それぞれの個別の問題の常設の相談の方がいいのか、人権擁護委員を辞める時期になってこんなことを思っている。</p>
子ども	<p>人権擁護委員として、市民相談の方をずっとやっているが、なかなか相談者がいないという、もう一つは周知できていない面もあると思う。</p> <p>委員からあった、性的マイノリティ、市内のある中学校では、当事者の保護者や本人からの訴えで、大きく学校環境が変わっている。トイレが設置されたり、制服の選択制、スカート、パンツの選択。スカートでパンツに代えて登校しているという事実がある。私はそのことで一つ思うのが、それがその学校特定のものだとおかしい、どこの学校でも同じようにハード面が整備されて、制服の選択制があるという形にならないと、いろんな人権問題というか、そういうのが出てくるのではないかと思う。そういう広め方も大事にしていきたいと思う。</p>
4	<p>ヤングケアラーの問題で、ヤングケアラーも家族の中に障害があったり、高齢者があったりしたことによって、家族の中の子どもが介護をしないといけなとか、親がその人の介護をしているから、親の代わりに小さい兄弟の世話をしないといけなことで学習機会とか、こども同志で遊べるような機会が奪われているといったスポットがこのごろあてられている。障害者に関してもそうで、昔は兄弟児と言われていたが、重たい障害のある兄弟がおり、母はずっと療育とかに通っている間自分が我慢して一人で留守番しているとかあったのだが、そういうことを子どもだから声を上げてこられなかったという事で、障害者だけの問題だけではない。あらゆる機会例えば、支援学校でその子がいたら兄弟はどうしているとか、親が精神の事で障害者の相談をしているとしたら、家族はどうしているか、子供はどうしているかという視点も入れて救いあげるような、きめ細かい対応に気を付けていくという事を入れてもらえたらいいなと思う。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
	1	<p>最近コロナの注射の関係で高齢者が不安になっている部分もあると思うが、もうここで生きていかれへんという一人暮らしの方と関わっているのだが、その生きていかれへん理由が隣の人になっている。団地のトイレから水が吹き込んだことがあって、機能的に問題だが、その時に修理に来た伊丹市の人が、お隣さんの方の誰かが戸を閉めて、、投げられたんちゃうかなみたいな、想像でもの言いはったから、余計うちに恨みつらみがあって、こうなってしまったんやと。民生委員や色んな人に、死にたいや、元気になったりしているが、会館の方でも一緒に取組をしたいと常に思っている。</p> <p>ともかく、高齢者の相談件数は おおかの会では毎年約170件さしてもらってるが、その相手の恨まれている家庭がお父さん寝たきりで、お母さんはこの前事故で救急車で運ばれて、息子さんがかろうじて私の知り合いの建設業者で働いていたが、上司のパワハラで、寝たきりになってしまっている。この前、その彼と話しできるか聞いたら、寝たきりでできない状態と言われ、危ないなど。いっぱいそうゆう課題があるので人権啓発センターとしても、行政としても相談業務に対する対応を件数だけの問題ではなく、そういった事例をどこまで吸収しているのかなど。その辺よろしくお願ひしたいと思う。</p>
高齢者	2	<p>高齢者の問題、ここに記載していただいているが、この通りであろうかと思う。我々がどういう風に見守っていくか、地域全体で自治会、老人会、民生・児童委員があり、世話好きの人もあり、そういう人達全部見守っていくかといけな。ただ、それがオーバーになってはいけなが、見守る目は多くあった方がいいと思う。</p> <p>それから、私は古いですから、向こう三軒両隣、その関係が必要。一番小さいコミュニティと言われているが肝要かと思う。井戸端会議もいいことだと思。できるだけ、1回であきらめず、何回か行っているうちに出てきてくれることもあります。なにせ外に出てきてもらわないと元気になれないし、コミュニティもできない。まずどういう風にして出てきてもらうか。というのが一番と思ってる。</p> <p>この方針の中でひとつ、ケアマネージャ、この方々の質と量の充実が非常に大事になってくると思う。高齢者が今後増えていく。認知症は、病気ですから、防ぐという事が出来ないが、市の高齢者保健福祉計画でも、共生と予防を車の両輪として認知症施策を推進するという事で、認知症サポーター、ここにも書いているが、まだまだ必要だと思。ケアマネージャーという名前がないので、ケアマネージャーの質量の充実を入れていただけたらと思。</p> <p>もう一つは、地域包括支援センター。高齢者のよろず相談所であり、高齢者の虐待、児童虐待も含めて相談を持ち込め、行政と連携して対応してくれる。ここがもう少しPRした方がいいと思。意外に知られていない、高齢者で、我々の中で話していると、そういう所があるのかと、一般的に知られていない。若い人でも相談に行っていたらPRをもうちょっとしていただけたらと思。いかに皆さんで見守っていくかに尽きると思。</p>
	3	<p>市立伊丹高校で、学級ごとにロングホームルームで人権課題に続く学習をしているが、高齢者の問題をやった実践を聞かせてもらったことがある。子供たちが本当に高齢者の方の尊厳自尊心を大事にしていくことが大事だという学習をしており、高齢者の団体の繋がり、おそらく担任の先生は繋がって教材を作っていると思うのだが、子供同士が交流ができるというそういうことも大事かと思っている。</p> <p>ワクチンの接種の問題で高齢者が取り残されていると言ったが、東京練馬区の光が丘団地の高齢化が進んでいるとのとのこで、昔の団地だそうだが、ワクチン接種の相談窓口を高齢者80歳近い方が予約の手伝いをしたという事が出ていた。この間委員さんと話していたら、個々の地域も解放運動でつながりが基盤が出来ているし、そういうことをやっていた。いろんな困っている人のワクチンの手続きをしていると、さすがこの地域だなと思っ聞いていた。そういうことが、行政のお手伝いだけではなく、住人が関係を作れていくことが大事。そういう風な関係を育っていくような人権の方針も大事かなと思。</p>
	4	<p>子供たちとの交流は今からやっっていくかといけな。なかなか難しいが、笹原小学校校区、小学校1年生の子ども達と昔の遊びをしようという。3年生の子ども達とは昔の話を聞くという事で、我々が皆さんの時はこうでしたよと話をし、そういう交流もしている。こちら側から呼びかけではなく、幼稚園の方からの呼びかけでやっているようで、むしろ学校側から声を掛けていただきたい。高校となると難しいが、小学校3年までかなと思っている。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
障がい者	1	<p>障がい者のことについて、最近の事としては、医療ケア児を支援する法律が新しく可決された。医療の進歩により、昔だったら助からなかったような赤ちゃんが命を繋げ、発達できるようになってきた。一方、常時痰の吸引、人工呼吸器をつけて日常的に医療ケアをしなければ生活できない困難さを抱えている子どものことが問題になってきた。医療的ケアがあれば学校で学びもできる人のことが問題になってきている。日常的に医療的なケアが必要な子どもと、その家族を支援する医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律は、6月11日に参議院本会議で全会一致で可決して、今までは努力義務にとどまっていた国や自治体の支援策を責務として法で明文化された。</p> <p>医療的なケアが必要な子どもを、全国どこでも安心して育てられるようになって欲しい。夜中も痰の吸引を何時間かおきにしなければいけない、とか、頻繁に入院しなければいけない子にずっと付き添って入院していたりする、そういう家族に対する支援が欲しい。その子どもが学校に行こうと思ったら、今まではお母さんがつきっきりで頑張って通っていた人もいれば、始めから付き添うことが出来ないから地域の学校に行くのをあきらめざるを得なかった人もいた。何とか看護師さんを配置するとか、そういうことをして、学校へ行ける地域もあれば、行けない地域もあった。そういうこともこれから考えてほしいと思う。</p> <p>うちの子どもも障害が重かったが、地域の学校に行って学べることはすごくたくさんあった。始めからもう駄目だねとあきらめていたのが今迄だったのだが、そうじゃないという事を認識してもらって前向きに学校へ行けたらいいなと考える。課題として挙げていただいたらと思う。</p>
	2	<p>とても貴重な意見で特に地域の学校で得られることが多かったという話だが、逆にその周りを取り巻く健常者の側からすれば、障害を持った子と一緒に生活することによって人間として賢くなる、得られるものはたくさんある。そういう側面を大事にしていかないといけないと思う。ヤングケアラーの話も出ましたが、なかなかその背後を支えている所にも目が届くような施策、教育が必要だと思う。</p>
	3	<p>ここ10年間で法律が沢山変わっている。人権に関わる法律も、変わっている。今おっしゃったように6月にできた法律もあるし、人権に関わる法律がどれだけ変わったかを、この10年間でどんな人権に関わる法律が変わってきたのかを大事にしてほしい。</p> <p>例えば、障害を持つ子どもで言えば、学校では合理的配慮という言葉が出てくる。障害のある子どもの教育的ニーズに合った教育をしていくということで、その子に一番合った、または、親がこの子にこういう教育をしてほしいというところの合理的な配慮が、教育としてできるかを先生方各校と障害を持っている親とが話し合いをしてやっているところである。そういう所のどんどん変わっているところは大事にしてほしいし、ノーマライゼーションがインクルーシブ教育という言葉が出てきているので、言葉も変わっているので、人権を見直す時に言葉も、法律もそういう所も考えながら今一番世の中がどうなってどう変わっていくのかを大事にしてほしい。今の学校の現状はそうで、変わってきているし、地域の学校に入れて学校の先生のとおりに行っていたらそうだったが、そうではない。その子にあった、その子の状況にあった人権が大事だと思うので、そこは考えてほしいと思う。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
	4	<p>ひかり保育園が建ってずいぶんとなりますが、幼保一元化という言葉が、私は幼稚園と保育園は違うと意識一つにしてきたのと、地域の子は地域で障害があろうと地域の子は地域の小学校中学校に受け入れると、障害を持っている子は違うんだというのがありました。そういう戦いをずっとする中で中学校に行ったときに、入り口は一緒だけど入ったところで障害を持った子はこっちの建物、他のクラスに行くという事が事実あって、子供たちが6年生を終えて中1に行くときに、障害を持っている子どもたちが周りの生徒がおかしい。何年何組なんだから何らかの形でその子の力をつけるためにたまに行くのはいいけど、ずっと朝から晩までその教室でというのはおかしいと、子どもたちが立ち上がった。例えば、男の子の子の名前がおかしい、子どもらがのぞいておかしいとか、障害を持っている子は制度をもらっているから出席簿が別だったとか、こどもの叫びで、子供たちの経験で良くなってきたから。私は障害を持っている人が地域のど真ん中で生きるという事は、周りの子ども達の意識を高める人間としての知恵というか意識を持ち、それで大きくなってきたが、そういうのがだんだん都合よくぼんでいってしまっているなと思った。</p>
障がい者	5	<p>平成19年ぐらいに特別支援教育というのが打ち出されたときに、これでスペシャルな支援を受けれる人、支援を受けられながら地域で暮らせるほうに向かうんだと思ったら、スペシャルな支援をもっともっと受けさせないとなって、ある程度見た時にこの子はもしかしたら発達につながりがあるかなと思ったら一生懸命抽出してそっちのスペシャルな支援に向かっているのが今みたいな感じがちょっとある。一般の学校もどんどん特別支援学級に属する人が増えてきて、今まで並べていたような人達も、もしかしたら多動かもしれないということで分けて、放課後デイがどんどん大流行しているのは、何か変な感じがして、食べ物との関係とかで障害児が増えているかと。昔は当たり前前に机を並べていた人たちもよけられているのではないかと、わかるんですけど親としてスペシャルなことがあったらスペシャルな支援をしないとわかるのですが、その辺をもう少し考えないといけないという気持ちはある。</p>
	6	<p>放課後児童クラブの関係しているが、保護者自身共働きだったり、ひとり親家庭だったり学童保育を利用しているが、その中でも委員がおっしゃったように放課後の使い方、それぞれ我が子に合うとかこの子には何が一番いいのだろうかというのは選択の一つである。土曜日はどちらかと言えば両親だったり保護者と過ごしたい家庭が多いので、月から金、沢山の子もがいるのだが、その5回の中でも月水金は児童クラブにお世話になるが、火曜と木曜については、ドアToドアというのか、正門の所で3時半、2時半になると車で迎えに来たりする放課後デイサービスがある。そういう所に聞いてみると、うちの子はスポーツが好き、多動も含めて体を動かすことが大好きで、体を動かすことを中心とするようなデイサービスに行かせたいとか、うちの子は物作りをする、手先が器用なのであまり喋れないけれどそういうことを中心にやってくれるところ。社会性というのか、いろんな子ども達とコミュニケーションをしながら楽しく、それが友達と最初はうまくいかないのが大人の人とうまくいくようなデイサービスを利用する、多くて月間14回ぐらい利用でき、ギリギリまで利用される人もいれば、未就学の時からここに行っているの、引き続き、小学校になっても、できたらうちの子のこういうことはもっと伸ばしてあげたいので、このデイサービスに毎週この曜日だけは通いますという形で、この保護者の中には我が子の特性を考えて利用している方もいるのかなと感じている。</p>
	7	<p>委員の話にもあったが、周りの子ども達、子供の感性というか、子供の訴えというか、そういうことも非常に大事にしていく必要があるのかと思う。当事者、障害を持った家族の方が色々選択される。それも尊重しないといけないが、必ずしも周りの受入体制が出来ていないため、受入体制の問題であるなら、それも非常に問題である。その辺を見抜くのは案外子どもたちで、するどく客観的に見てくれるケースが多いのではないのかと私も体験的に思う。当事者の声を聴くとか、子供の目を大事にするとかは大事だと今話を聞いていて思う。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見	
同和問題	1	<p>成果として、人権相談に関して、伊丹人権啓発協会、人権擁護委員、行政が連携し、解決に向けた取組が一定できた。</p> <p>課題として、人権相談に関して、認知症などの高齢者問題、差別発言などの障がい者問題、その他さまざまな人権問題が複合化した相談、または、人権問題に発展する一歩手前の複合的な相談に対し、関係機関と行政の連携強化が必要だと感じている。</p> <p>また、差別落書きなどの事象が発生した際の、人権教育室と学校との連携を強化する必要がある。具体的には、落書き事象の背景を捉え、その後の取組に活かすことが大事。学校内(クラス内)での仲間づくり、関係づくりに活かすようにすることが必要。</p> <p>市職員・教職員の研修を充実することが大事であり、特に課長級以上に対しての人権意識の向上が大事。</p> <p>インターネットモニタリングは、モニタリング体制を充実し、強化して取り組まないといけない。</p> <p>さまざまな人権問題を解決するための拠点施設である人権啓発センターにおいて、同和問題の歴史を正しく伝えるための常設展示を今後も検討していく必要がある。</p> <p>人権に配慮した災害対応などに関し、災害担当所管課と避難所である人権啓発センター、関係機関の連携強化が必要だと感じている。</p> <p>さまざまな人権課題の研修の講師として派遣される人権教育指導員の、今後活かすための指導員間の研修内容報告や意見交換をする場の検討</p>
外国人	1	<p>外国人のところの欄で成果や課題、これはざっくりと書かれているが、今後10年を見越した人権施策ということで、是非、外国人に関しては、常設の相談・支援窓口の設置してほしい。</p> <p>例えば、市は社会のパートナーとして外国人、いわば「移民」としての外国人、今は外国人労働者といっているが、沢山来るだろうと、国も何度も言及している。そのようなことを見据えて、常設の相談・支援窓口、センター、課、建物、そういうものがあるかなと思う。例えば、女性の場合は男女共同参画センター、子どもの場合は子ども発達支援センター、高齢者の場合は伊丹市福祉権利擁護センター、障がい者の場合は伊丹市障害福祉センター、障害者虐待防止センター、同和問題は人権啓発センターとか、それぞれの人権問題に特化したさうゆう相談施設、窓口があるが、外国人の場合はなく、これからますます増えてくる中で必然的にいるものかなと思う。今回、見直す中で、外国人の相談・支援センター等の場、さうゆうものを常設してほしいことが一つ。</p> <p>もう一つは、外国人といった場合に一つにくりにくい面があると思う。それは大きく分けて戦前からいる、特に植民支配によって生じた外国人としてのオールドカマー。それと、戦後、特に日本のバブル期を中心に沢山来た外国の人達であるニューカマー。それを一つにくる施策、大きくはこれでいいと思うが、具体的な施策としては、オールドカマーとニューカマーの特性に合う、それぞれの問題に特化した別々の課題があるように思う。</p> <p>オールドカマーに対する課題は、おそらく将来はニューカマーもそれに類した課題に当たる。つまり、一番基礎であるオールドカマーの施策をしっかりとすることによって、ニューカマー、新しく来た外国人のいろんな課題、日本で生きていく中での基礎となる部分をしっかりと固めることができると思う。別々のものではなくて、基礎部分とそれと新しい部分の二段構えのような感じである。オールドカマー、ニューカマー、根っこの部分は同じだと思うが、それぞれが具体的な状況に応じた課題があるかなと思う。</p> <p>もう一つ、外国人の成果のところ二番目の「日本人と同じように安心して暮らすことができる生活支援を推進した」の文言に関してだが、少し気になった。つまり、「日本人と同じように」と言うことは、日本人が上位で外国人は下位という、早く外国人は日本人と同じように上げないとあかんということが、考えすぎだとは思いますが、そんな気持ちを持った。おそらく書かれた方は、日本人と同等の権利や保障を持てるように、というような意味合いだとは理解はしているが。その部分は普遍的に「市民として安心して暮らすことができる」でもよいのではと思う。それと同じように課題の二番目も、同じような文脈で「日本人と同様に市民として安心して暮らす」は「日本人と同様に」は省いてもよいのではと思った。</p>

区分	伊丹市人権教育・啓発推進会議委員の意見
外国人	<p>2</p> <p>ニューカマーとオールドカマーに関して最近起こったことを一つ。コロナワクチンの接種券が来たのだが、それが「通名」で来た。コロナワクチンの接種券は本人確認が必要で、車の免許証とか、健康保険証とかで本人確認するが、それらは「本名」で通名でないから確認できず、そうなると接種できない。コロナ班の人に問い合わせ、結局は市民課に電話したところ、原則通り「通名」で通知していると。なぜそうなのかと、聞いているうちに、ニューカマーの人たちの通名が結果として優先されている。つまり、新しく来られた外国人が通名を申請するというは、それで生活をするという意味表示としてとらえ、それを優先した形になっている、と私は思った。オールドカマーの通名は植民地統治下において「創始改名」という半ば強制に近い形で持たされた歴史的経緯があるが、形としたらその配慮はないように感じた。そのようなコンピューターシステムで機械的に通名で郵送している。市の人に聞いたら、システムがそういうコンピューターソフトになっていて煩雑で修正することは大変で、できないという。私自身それを聞き、そんなもんかな、市の人ともどもお互いが納得してしまっていた。</p> <p>しかし、システムがあつて人間ができるんじゃない、人間が生きてその利便性のためにシステムを創ったので、出来ないのではなく、しないのではないかと考えた。</p> <p>例えば、太陽を西から登らせろというのは不可能だが、人間が作ったシステムを修正することは不可能なことではないはずだと思う。</p> <p>本名を隠して、通名を希望する在日・オールドカマーがいることも知っている。ほとんどの外国人は在留資格の更新で市民課の窓口には必ず行く。その時に、市からの通知や郵送時等に本名にしますか、通名にしますか、との選択の意思表示をしてもらえれば、お互いが気持ちよく、トラブル無しでいくのかなと思う。何度もこれを提案しましたが、コンピューターシステム上難しい、と言われ続けられ、私もそうなのか、とあきらめていたが、今回のことで何か進展できないかと思った。</p>
	<p>3</p> <p>今の現状がどうか分からないが、私の子どもがまだきぼう園に通っていた30年前ですが、外国から来たお子さんに障害があつたという事で、中国国籍の方、韓国国籍の方日本語が通じないようなお母さんが、初めてののお子さんで、しかも障害があつて、通つた時に色々支援がうまく行けなかったりするので、すごく苦労しておられたというのが印象に残っている。その後いろんなことがあつたという事を聞き、いろんな不便はあると思うが、子ども、障害者、外国人で、多面的にそういう人達を支援するような縦割りではなく、仕組みがあつたらいいなと感じている。</p>
	<p>4</p> <p>最初に委員の方で常設の窓口というか、外国人に問題として拠点施設がないのはおかしい。委員の話で多面的に受け入れる場と、さまざまな課題に対応できるものが需要ではないかのご提案があつたので、大切にしていきたいと思う。</p> <p>古い話になるのだが、私が神津小学校が初級学校との交流を私が現役の時やっており、授業参加させてもらって感銘を受けたのが、2年生の子どもがお隣の国の事を知ろうという教材で、担任の先生がチマチョゴリを出したら子どもが飛びついて、大騒ぎで綺麗、着てみたいという風なそういう風な形で文化に触れるというか、連合体育大会で小学校も初級学校と交流で能楽、演技であるとか。デジタル化で人とのつながりがという話もありましたが、いままでの人権教育で大事にしてきた中に、出会って感覚で理解する、理屈ではなく感覚で理解していく手法というか、啓発を次も大事にし、時代が変わってきているからこそ、もう一回原点に返ることが大事だと思ひながら聞かせてもらった。</p>